

2025年9月

からし種

カトリック片瀬教会



2025 年平和旬間を終えて

教会委員長 宮國麻美

今年は戦後 80 年という節目、また、現在の世界情勢を鑑み、神父様は早くから今年の平和旬間は例年にも増して祈りを大切にしたいとおっしゃっておられました。ですので、8 月に入りましたら、ミサの前の 15 分間はロザリオの祈りを唱えました。そして、8 月 8 日と 10 日のミサ後に聖体顕示台におさめられたご聖体に向き合い、霊的な一致を深めながら、静かに祈りを捧げました。また、祈りのリレーにも参加して下さる方々のお名前が沢山記入され、場所は違いますが、心を一つにして、祈りが繋がっていった実感をそれぞれがお感じになったのではないのでしょうか。

そして迎えました 8 月 15 日聖母被昇天の祭日のミサには大勢の皆様が訪れ、ブランチ神父様は、丁寧にマリア様へのミサを立てて下さいまして、マリア様の被昇天をお祝いする事ができました。そしてその後の懇親会は、準備から当日まで、多くの皆様が、ご自分が可能な限りのお手伝いに積極的に、楽しそうに参加して下さいました。そして、90 名近い参加者、大人も青年達も子ども達も、世代を超えて笑顔あふれる時間を持つ事ができました。翌日から入院される神父様を思い、参加者の心が一つになり、参加出来なかった皆様の分まで神父様にエールを送る事が出来ました。マリア様への感謝、また、平和の為に一つになり祈り、神父様にも一生懸命にエールを送った一日、となりました。

昨日 8 月 21 日、術後の神父様に会ってまいりました。顔色は良く、普通にベッドに座っていらっしゃる姿を見てまずはほっといたしました。帰り際に「この病院の看護師さん達は皆明るく元気でいつも笑ってくれる。自分もこうでないといけない、平和をもたらすのは笑顔ですね。」とのメッセージを頂いて来たので、どうしてもこちらに書いて皆様に伝えたいと思った次第です。いつも心に笑顔をもって何事にも対処してみる、神父様の言葉と笑顔を刻みながら帰路につきました。

酷暑の夏。でも、ここ片瀬教会には沢山の祈りと人々の笑顔がありました。私にとっても祈る事の大切さを再認識した今年の平和旬間でした。

昨夜、司祭館の前の通りを用事で通りかかりました。いつも、灯りがともっている神父様のお部屋はひっそりと暗く、淋しい気持ちになりました。灯台を照らす灯り、私達信徒を導いて下さるブランチ神父様の早いお戻りを切に祈りたいと思います。 主の平和のうちに…

2025 年 9 月 度 教会委員会報告

開催日時：2025 年 8 月 10 日(日) 12 時 00 分～13 時 30 分

出席者：ブランチ神父、委員長、教会学校、副委員長、副委員長、典礼、財務、監査、総務、
宣教司牧、福祉、広報、一粒会、市内キリスト教連絡会、シャルル聖パウロ修道女会、
聖母訪問会、書記
※コミュニティ代表者：(A)、(B)、(C)

☐ ブランチ神父のお話し

手術を受けるのでかなりの期間不在となりますが、その間皆で協力し合ってください。また、祈ってください。

☐ 全体の報告および連絡事項

1. 8 月 15 日 聖母の被昇天、平和の祭り
16:30～ミサ、その後マリア像前で短い祈りをし信徒会館 1 F で平和の祭りを
行う。
2. 7 月 27 日 第 5 地区「伝える力を育てる部門」が大船教会で開かれた。宮國
委員長が出席。ヨハネによる福音書 4. 6～30「イエスとサマリアの女」を味
わい、分かち合いを行った。

☐ 各部会からの報告

財務部

次回からでいいので平和の祭りで教会負担がどのくらいになるか予算を立てて欲しい。

総務部

敬老の祝い案内を準備中。8 月 24 日に手渡し、残りをコミュニティで手分けして配り、郵送。

典礼部

新しい香炉を購入した。従来のものより軽量。

宣教司牧部

教会見学予定：1) 11 月 1 日 東京から「美しい教会巡り」という団体
2) 11 月 19 日 藤沢ガイドクラブ

福祉部

夏の合宿団体、9 団体の内 7 団体の合宿が無事終了した。

教会学校

7月31日(木)から8月2日(土)第5地区教会学校サマーキャンプが無事終了。片瀬から小中学生5名とリーダー2名、計7名が参加。子どもの感想をからし種9月号に掲載予定。

中高大青会

イタリア巡礼してきたMさん、無事帰国した。別途報告予定。

一粒会

10/13(月・祝)に開かれる第57回横浜教区一粒会大会参加申込は9名。

市内キリス募ト教連絡会

8月2日(土)「平和のための合同祈祷会」が藤沢バプテスト教会で開かれた。参加者は67名、片瀬教会からは5名参加。

営繕及び営繕プロジェクト

7月18日 共用トイレ屋根防水工事完了

7月31日 共用トイレ天井照明修復

8月4日～ 八角形屋根防水工事

各コミュニティから

Aグループ 8/15「平和の祭り」の食事、ソフトドリンクを担当。準備を進めている。

その他

聖テレジア病院から、クリスマスのキャロリングの要望があり。コロナ前は、「マリアコーラス」が実施していたが、コロナの影響で消滅してしまった。「マリアコーラス」と教会の有志でキャロリングをやることにした。詳細はこれから詰めていく。

□検討・討議事項

1. 9月14日 敬老のお祝い
 - 1) 78歳以上の信徒を対象。
 - 2) ミサ後茶話会をする。準備はいつものカフェを基本とする。
 - 3) お祝いの品は、お持ち帰りの紅白饅頭とお赤飯(上州屋)を用意する。
 - 4) ご家族の方々もお誘いする。
 - 5) 案内状は上記。9月1日迄出欠の返送をしてもらう。
2. 教会バザー
 - 1) 昨年同様、フリーマーケット形式、コミュニティ主体のやり方とする。
 - 2) 日時は、11月9日(日)11～14時とする。(ミサは通常通り)
 - 3) 実行委員は、正副委員長を中心にコミュニティ代表、委員会メンバー。
3. 今年の「ペットの祝福」を実施するかは未定。
4. 10月度教会委員会は、9月の第2主日が敬老のお祝いの為第3主日の9月21日に行う。

次回委員会開催 9月21日

カトリック横浜教区平和旬間2025

講演会「パレスチナとわたしたち」 ～ガザ戦争から見る支援の限界と役割～

8月11日（月・山の日）カトリック雪ノ下教会にて金子由佳さん（立教大学兼任講師、国際協力 NGO 職員）による講演を聴きました。現在、世界中でウクライナと共に注目が集まっている「ガザ」の現状を知る機会ということで会場には、多分主催者の予想をはるかに上回る人々が集まり、配布される参考資料も不足し後日郵送して頂いた次第でした。

講演者の金子さんは、何度もパレスチナに渡られ、研究者としての立場で「今回のガザ戦争の経緯と被害、パレスチナの問題概要」を語ってくださいました。その中で特にMUAC（ミューアック）という上腕周囲径により、乳幼児の栄養状態を簡易的に、評価する測定方法を知りました。国境なき医師団では「命のうでわ」と呼ばれているそうですが、MUAC 12.5 cm以下は急性栄養失調と診断され、ガザ市においては何と 18.5%、5人に1人の乳幼児（5～59 ヶ月）がそのレベルに達しているそうです。飢えをしのぐために子供たちは、動物の餌・葉っぱ・砂混じりの小麦粉を食べ、たとえ命が守られたとしても、長期的な栄養失調とトラウマにより心身発達に深刻な影響が残ることが懸念されます。また、そのような戦禍を被った人々を救うべく派遣されている医療現場関係者への集中的な空爆が行われていること。正に救われるべきはずの命を救えない現実。何度も繰り返される「避難命令」という名の強制移動。それはやがて「強制収容所建設」につながる。…このように語られる悲惨な現実、枚挙にいとまがありません。金子さんの同僚もお二人が空爆の犠牲となっているそうです。

海の向こうの国のことと考えがちですが、このように行き来している方の肉声を聴くと、改めてわたしたちの住む日本がいかに平和であるか日々感謝し、現状の中で何が出来るのか…切実に考えました。あまりに重い現実、具体的な答えは簡単には出せませんが、ガザの多くの亡くなった子供たち、生きていても飢えている子供たちのことに常に思いを馳せ、「祈る」ことは出来ると痛感しました。

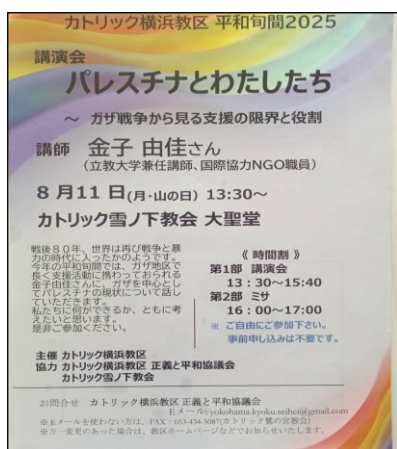
講演後は、第二部として梅村司教様司式によるミサに与りました。説教の中で、朝の連続テレビ小説「あんぱん」で主人公が戦中・戦後の価値観の変化（戦争中、子供たちに教えていた正義は間違っていた…）に悩む姿や、戦争を知らない世代がほとんどとなった現代、それを語り継ぐ重要性を強調されていた。また、

また 6 月に発表された「平和を紡ぐ旅―希望を携えて―」戦後 80 年司教団メ

ッセージ〈日本カトリック司教団核兵器廃絶宣言 2025 から〉神がきわめてよいものとして造られたこの世界と人間の尊厳をおとしめる核の存在を廃絶し、昨年10月に日本被団協がノーベル賞を受賞した意義を考え、キリストの福音に従い、対話を通じた平和を実現することの重要性を説いていらっしゃいました。

今回の横浜教区主催、正義と平和協議会・雪ノ下教会協力による講演会には、片瀬教会から5名が参加しました。毎年、平和旬間に行われる講演会ですので、是非多くの皆様に参加して頂き、日々の生活の中で「平和」について今一度考える一助となればと思いました。

編集委員 K. E.



2025年度 平和のための合同祈禱会

～ 平和を語り未来へ繋ぐ ～

T. A.

8月2日(土)日本バプテスト連盟藤沢バプテスト教会で同教会牧師の伊藤牧師司式で「平和のための合同祈禱会」が執り行われました。

各教会より67名の参加があり、片瀬教会からは5名(昨年8名)の参加がありました。台風後の蒸し暑い中でしたが、片瀬教会からご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

今回の合同祈禱会は、日本福音キリスト教会連合友好協会藤沢キリスト教会の金貞男牧師によってお説教が行われました。私にとって「平和」について考えさせられるお説教だったのですが、すべてをお伝えするのは難しいため一部を抜粋させていただきます。

「日本にいと8月は過去を顧みる月です。今年は、戦後80年の節目です。世界ではいまだに戦争が行われています。ウクライナ、パレスチナ、ミャンマーなど、

相手に対する『敵意の壁』が戦争を生み出しています。敵意の壁は、文化、宗教、民族の違いなど様々なモノで作られ出されます。イエス・キリストもこの敵意の壁により、十字架につけられ、そして死をもって平和をもたらしました。敵意に対するには、キリストのように『私』から始まる行動が大切です。話を聞く、謝る、そして許すなど、自分からできる小さな平和の種を蒔いていくことが大切です。」

金牧師は、未来の平和は「今」できる、小さな平和の種を蒔くことであり、それは誰でもでき、その蒔いた種を育て繋ぐことで、未来の平和が見えてくる、実現されると伝えてくれたのではないかと私は感じました。

平和の種ってどんなモノがあるのかと、祈祷会の中で思っていました。でも、ちゃんと答えも祈祷会の中にありました。アッシジの聖フランシスコの「平和の祈り」です。

憎しみのあるところに 愛を 争いのあるところに 和解を 分裂あるところに 一致を… 毎回唱える度にとても素敵なお祈りだと感じています。この平和の祈りの一つ一つを実施することが、平和の種を蒔くことになると思います。一粒でも多く、平和の種を蒔くことができるように、できる限り「平和の祈り」を祈り、種を蒔く準備をしたいと思います。

そして、もう一つ感じたことは、未来というのは、未来がある子供や青年などが頑張って作っていくモノのように聞こえることがありますが、今を生きている老若男女問わず、みんなで未来の平和を作るための行動、平和の種まきをしなければいけないと感じました。

皆様、来年は合同祈禱会に参加して、平和について考える時間を一緒に持ちませんか？ ご参加をお待ちしております。



サマーキャンプの思い出

M. R.

1 日目に地球博物館に行き、夜は花火をしました。線香花火をたのしみました。ぴかぴかオレンジの花火がすてきでした。

2 日目の朝おきて、ラジオ体操をしました。朝ごはんの前にお祈りをして「食べよう心にこのかてを受けよ、心にめぐみよ、からだに心に神よいつくしみを」という聖歌を歌いました。おいしいごはんのあと、お部屋に戻って、地球博物館で見たコアラの絵をかきました。

10 時に枇杷神父さまのミサがありました。神父さまが遠い国にいらっしゃるので、みんなで考えたお祈りをしました。そのあと、水でっぽう大会をみんなで楽しみました。使った水でっぽうは、家に持ち帰ることができてうれしかったです。

忙しくてなかなかお会いできなかった教会の中学生のおねえさんともいっしょに参加できて幸せでした。キャンプがとてもたのしかったので、来年1年生になる弟にもすすめました。信者ではないお友だちも参加できるので、次はわたしのお友だちにおすすめしたいと思っています。

このキャンプのために準備してくださった前島先生や宮國先生をはじめ、お祈りしてくださった神父さまと、片瀬教会のみなさま、ありがとうございました。



2025 年 9 月

☆教皇の意向：すべての被造物と私たちとの関係

聖フランシスコの霊性にならい、神に愛され尊重されるべき全ての被造物と私たちとの関係が、互いに影響を及ぼし合っていることを体験できますように。

☆日本の教会の意向：高齢者

高齢者のこれまでの労苦がねぎらわれ、いただいいのちを神の恵みのうちに受け取ることができますように。

(祈りのしおり「きょうをささげる」より)

典礼と行事・活動予定

曜 日	典 礼	ミサ・典礼時間	行事・活動予定
9/1 月	年間第22主日 被造物を大切にする世界祈願日		
2 火			
3 水	聖グレゴリオ1世教皇教会博士 記		
4 木			まりあ食堂
5 金			
6 土			
7 日	年間第23主日	8:00 10:00	
8 月	聖マリアの誕生 祝		
9 火			
10 水	日本205福者殉教者 記		
11 木			
12 金			
13 土	聖ヨハネ・クリズストモ司教教会博士 記		
14 日	十字架称賛 祝(年間第24週)	8:00 10:00	敬老のお祝い
15 月	悲しみの聖母 記 祖父母と高齢者のための世界祈願日		
16 火	聖コルネリオ教皇 聖チブリアノ司教殉教者 記		
17 水			
18 木			
19 金			
20 土	聖アンデレ金と同志殉教者 記		
21 日	年間第25主日		
22 月			
23 火	聖ピオ(ピエトレルチーナ)司祭 記		
24 水			
25 木			
26 金			
27 土	聖ビンセンチオ・ア・パウロ司祭 記		
28 日	年間第26主日 世界難民移住移動者の日		
29 月	聖ミカエル聖ガブリエル聖ラファエル大天使 祝		
30 火	聖ピエロニモ司祭教会博士 記		

教皇のお名前——名は体を表す〔4〕

K. N.

2025年5月8日に選出された教皇レオ14世聖下は、19世紀末の第二次産業革命時代の教皇レオ13世(在1878－1903年)に敬意を表し、「レオ」の名を選ばれました。さらに、選出後初めての「正午の祈りの集い」でのスピーチにおいて、教皇名の理由として、レオ13世が回勅「レールム・ノヴァールム Rerum Novarum」(1891年)で当時の社会問題に取り組んだからでもあると説明されました。特に、人工知能(AI)などの技術革新が進む現代では、教会は人間の尊厳と正義を守るために必要な存在である旨も述べられています¹⁸。

この「レールム・ノヴァールム(ラテン語で『新しい事柄の』の意)」は労働問題を真正面から取り上げた最初の回勅であり、行き過ぎた工業化や独占資本主義の弊害を警告し、キリスト教の観点から労働者の権利と尊厳を主張しました。産業構造の変化に伴う社会の大きな変革にいかに向き合うかという点で、「レールム・ノヴァールム」は重要があるがゆえに、戦後の教皇たちはこの回勅について言及し続けてきました。レオ14世聖下は、危機感をもってグローバル経済と技術革新と人間の尊厳の関係に指針をお示しになったといえます。

またレオ14世聖下の御名を選ぶ際に、大教皇聖レオ1世 San Leo I Magno(位440－461)のことが想起されたことは想像に難くないでしょう。古代末期に生きた大教皇レオは、東方から彗星のごとく現れ、イタリアを併呑する姿勢を示したフン大帝国のアッティラ大王と会見し、イタリア侵攻を思いとどませました(452年)。さらに北アフリカに拠点をおくヴァンダル王国の国王ガイセリックを説得して、ローマ市から追い払ったのでした(455年)。これらのエピソードが示すように、レオの名は「レオ＝ライオン＝勇猛さ」のみならず、立場を越えた「説得」や「話し合い」というイメージを喚起させるともいえます¹⁹。

レオ14世聖下は、イエス様の言葉「あなたがたに平和があるように」と繰り返しお話しされました²⁰。単に争いごとがないのみならず、満ち足りた状態いわば、個々人が自己実現できる環境である「平和」を希求する姿勢は、選出後初めての「正午の祈りの集い」でのスピーチから一貫しています。「世界中の権力者に申し上げたい。『決して二度と戦争のないように』という、どの時代にも常に重要なこの呼びかけを繰り返したい」と語りかけ、「ガザ地区で起きていることに、深痛している」と述べ、「即時停戦が実現し、民間人への人道支援が許され、全ての人質が解放されることを願う」と呼びかけられました²¹。このメッセージは、フランシスコ教皇の最後のスピーチを継承していると感じた方も多くいらっしゃるでしょう。因みに、レオ13世は、保守派とリベラル派の対立を緩和すべく仲介されましたので、レオ14世聖下もこの姿勢を範とされる可能性があるかもしれません。

最後に、教皇レオ 14 世聖下の紋章が決定しましたので(付録「戦後の教皇一覧」の紋章を参照)、レオ 13 世以外に聖下が敬愛されている先人に注目してみましょう。聖下は、聖アウグスチノ会(聖アウグスティヌス隠修士会 Ordo Eremitarum Sancti Augustini)出身初の教皇であり、その総長でありましたので、聖アウグスティヌスの言葉が紋章にちりばめられています²²。矢で貫かれた心臓は「あなたは私たちの心を愛の矢で射抜かれました Sagittaveras tu cor nostrum charitate tua(聖アウグスティヌス『告白』)を表し、その下にある本は、全ての人の心を変容させることができる神の言葉を象徴的に示しています。モットー「私たちは彼[キリスト]のうちに一つである In illo uno unum」は、「私たちは多くの子たちなのである。彼は独りであり、私たちは彼にあって一つである Ille unicus, nos multi; ille unus, nos in illo unum」(聖アウグスティヌス『詩編注解』)の一節です。

以上のことから、教皇レオ 14 世聖下は、第 2 バチカン公会議を継承発展させるとともに、海外司牧訪問を積極的に行い、エキュメニズムを推進されていくことに難くはありますまい。そして、キリスト教のキー・ストーンである平和を教会内外に希求されることでありましょう。保守派の伝統とリベラル派の現代的要請の仲介者として、新たな活路を見出されるのではないのでしょうか。

「レールム・ノヴァールム」を引き継ぎ、環境問題、人権問題や第 4 次産業革命(AI の爆発的進展)という喫緊の重要案件に対して、多宗派・他宗教の人々も得心のいく倫理的活動指針をお示しになられることと思われます。そしてその際には、教皇レオ 14 世聖下が敬慕される、善悪霊肉二元論のマニ教から善一元論のカトリックに回心した聖アウグスティヌスの叡智が活かされることでしょう。例えば、結果として悪にばかり目が向いていたマニ教に対して、「神は悪をも善用なさるほどに、全能であり善なる方である」という聖アウグスティヌスの考え方が、深化しつつある世界の分断と反対者への憎悪を克服する光明を示してくださるように思われます²³。

註

18「新教皇『二度と戦争のないように』と訴え ウクライナやガザ、印パにも言及(2025/05/12)」(BBC 公式 H.P.(最終アクセス: 2025/05/15))。

19 Benedetto XVI, "Udienza generale, 05/03/2008", in *La Santa Sede H. P.*(最終アクセス: 2025/06/15); ヴィズマール恵子「新ローマ教皇レオ 14 世誕生の舞台裏」『イタリア事情斜め読み』(ニューズウィーク日本語版公式オフィシャルサイト(最終アクセス: 2025/06/15)); 「教皇レオ 14 世一般謁見——神が聞かない叫びはない」(バチカン・ニュース H. P.(最終アクセス: 2025/06/15))

20「ヨハネによる福音書」20 章 19、21、26 節;「レオ 14 世、国の指導者らに平和のための対話呼びかける(2025/5/15)」(バチカン・ニュース(最終アクセス: 2025/05/15))。

21「前掲(2025/05/12)」(BBC 公式 H.P.(最終アクセス：2025/05/15))。

22「教皇レオ十四世の紋章とモットーの説明(2025/05/19)」(カトリック中央協議会 H.P.(最終アクセス：2025/05/19))。なお、アウグスチノ会は、フランシスコ会(正式には「小さき兄弟会 Ordo Fratrum Minorum」)、ドミニコ会(正式には「説教者兄弟修道会 Ordo Fratrum Praedicatorum」)やカルメル修道会(正式には「カルメル山の聖なるおとめマリアの兄弟会 Ordo Fratrum Beatae Mariae Virginis de Monte Cermelo」)などともに 4 大托鉢修道会の 1 つです。ただし、アウグスティヌス修道参事会 Canonici Regulares Sancti Augustini とは別組織です。修道参事会の方は、司教座聖堂で司教の協力者であった司祭たちのうち、聖アウグスティヌスの規則を採用して修道会になったものを指します。現在では、ラテラノ律修参事会とかその他の律修参事会が集まって、聖アウグスティヌス律修参事会連盟を形成しています(杉崎泰一郎『修道院の歴史——聖アントニオスからイエズス会まで』(創元世界史ライブラリー)創元社、2015)。アウグスチノ会については、カリタス会東京歴史記録保管所顧問の高久充氏からご教示を賜った。

23 山田晶『アウグスティヌス講話』講談社学術文庫、1995 年；大島保彦「反対側の声を聞け。——アウレリウス・アウグスティヌス『二つの魂』『言葉がひらく哲学の扉』(フォーラム哲学編) 青木書店、1998 年、51–53 頁。

【付録】 戦後の教皇一覧

代数	教皇名	本名	名の由来	在任	紋章
260	尊者ピウス 12 世	エウジェーニオ・マリー ア・ジュセッペ・ジョヴァ ンニ・パチェッリ	前任者教皇ピウス 11 世	1939/3/2 ～ 1958/10/9	
261	聖ヨハネ 23 世	アンジェロ・ジュセッ ペ・ロンカッリ	洗礼者聖ヨハネ	1958/10/28 ～ 1963/6/3	
262	聖パウロ 6 世	ジョヴァンニ・バッティ スタ・モンティエーニ	使徒パウロ	1963/6/21 ～ 1978/8/6	
263	福者ヨハネ・パウロ 1 世	アルビーノ・ルチアーニ	前任者教皇ヨハネ 23 世と 教皇パウロ 6 世	1978/8/26 ～ 1978/9/28	
264	聖ヨハネ・パウロ 2 世	カルロ・ヨゼフ・ヴォイ ティア	前任者教皇ヨハネ・パウロ 1 世	1978/10/16 ～ 2005/4/2	

265	ベネディクト 16 世	ヨーゼフ・ラッツィンガー	教皇ベネディクト 15 世 スルシアの聖ベネディクト	2005/4/19 ～ 2013/2/28	
266	フランシスコ	ホルヘ・マリオ・ベルゴリオ	アッシジの聖フランチェスコ	2013/3/13 ～ 2025/4/21	
267	レオ 14 世	ロバート・フランシス・プレヴォスト	教皇レオ 13 世	2025/5/8 ～	

平和の祭り 和やかに・・・

私たちにとって 8 月 15 日の聖母被昇天は重要な記念日であり、また平和旬間最終日です。今年は終戦後 80 年という節目でもあるため、気持ちを一つにして平和を願いこの日に集まり親睦を深めることは有意義なことでしょう。

携わった主な方から次のようなコメントをいただきました。

音楽部門では、金曜講座の仲間たちと、周りの沢山の皆さんが協力をしてください、楽しく準備を進めてまいりました。選曲は金曜講座で学んだ「ヘブライ人への手紙」に由来する原曲の歌詞内容で「希望のささやき」、そしてブランチ神父様のお国アイルランド民謡「ロンドンデリーの歌」。聖年にちなんで「希望の巡礼者」。フラダンスの振り付けと共に歌った「涙そうそう」、またアンパンマンたいそうでは、子どもも大人も一緒になって歌って踊り、信徒が一丸となって充実した平和の祭りになりました。夕暮れの教会に清らかなヴァイオリンの音色が流れる中、世界の平和を願い、神父様のご回復を心から祈りました。

音楽担当 K. I

今年のゲームは見ていて分かりやすい形にしようと、子ども達が探すグッズを持つ係を 10 人の方にお願ひしました。探し終えてご褒美のキラキラ光るペンダントをもらった子どもたちは、とても嬉しそう！今年は役割をきちんと決めて計画的に取り組んだこと、当日はお弁当作りや片付け等、大勢の方が携わり、「みんなが力を合わせて楽しかった！」という気持ちになりました。そして子どもの笑顔が最高でした。

ゲーム担当 K. K

この時期はお盆と重なり、実家に帰省している方も多く、この集いで旧交を温め昔の片瀬教会を懐かしむ。一方集い担当の方々は現代文化の象徴 LINE を駆使して見事な連携で準備を行った。昔と今を振り返る良き機会でした。

ビンゴ担当 Y. F

今回の平和の祭りは、コミュニティや世代を超えた交流が出来、正に教会らしい姿だったのではないのでしょうか。担当だけでなく参加者が協力し合い、演奏やゲーム等もほぼぶっつけ本番状態でしたが、全員参加型で進められました。今回初の試みとして、各自でゴミの持ち帰りとなりました。手術を控えた神父様も楽しんでくださったようです。何より世界中が戦禍、貧困、飢餓の中、共に食し、集える恵みに感謝しなければなりません。

担当コミュニティ A 代表 Y. O

実行委員、スタッフとして動いて下さった皆様に対して、まず、感謝申し上げます。多くの皆様が、ご自分の可能な範囲で無理せず、当日来られない方々も、一緒に準備会に参加して意見をおっしゃってくださったり、また、来られる皆様は積極的にミーティングに参加して下さいましたし、ミーティングに参加できない皆様は、文明の利器のラインで連絡を流すと、きちんと反応して下さったりと、コミュニケーションがよくとれた事にとっても感謝いたしました。当日はまたお手伝いの方の人数が増え受付 1 時間前には準備が整い、ゴミサに落ち着いて与る事が出来た事が本当に良かったです。片付けもとてもスムーズに終わり、何もかも時間通り計画通りに進みました事は、皆様の御協力の賜物でした。本当にお疲れ様でした。不行き届きいな所もあったかと思いますが、反省会で述べていただき、来年につなげたいと考えます。

参加された皆様と共にビンゴや、歌のコーナー、子ども達のお楽しみ、花火、とバラエティーに富んだ今年の平和の祭でした。共同体の皆様それぞれに何等かの御協力をいただき良い一日が過ごせました事に感謝いたします。

宮國委員長

後日主日のミサで神父様よりお言葉をいただきました。「マリア様被昇天のお祝いでは、平和の祭りが大盛会の内に無事おこなわれました。皆さんの献身的な働きと協力のお陰です。そのことを神様に感謝します。そして世界平和のために祈りましょう。」

神父様はこの 2 日後に手術を控えておられます。ご回復を皆様でお祈り致しましょう。

編集部



◆お知らせ◆

○9月14日(日)10時のミサの中で「病者の塗油の秘跡」を行います。その後、信徒会館にて敬老の日のお祝いを開催いたします。対象の78歳以上の皆様には、ご案内状をお渡し(手渡し、ポスティング、郵送)しております。多くの皆様のお越しをお待ちしております。

○9月20日(土)10時～、横浜教区カテキスタ会公開講座が、雪の下教会で開催されます。

テーマは「信徒の奉仕職」、講師は梅村司教様です。詳細は聖堂入口の掲示版をご覧ください。

★「典礼と行事・活動予定」は紙面の都合上8ページに掲載しています。

2025年9月号

〒251-0035

発行 カトリック片瀬教会
藤沢市片瀬海岸2-2-35
TEL/FAX 0466-22-4646

<https://www.catholickatasechurch.com>